

21  
タビタビ  
聖徒伝 105

# 「御言葉に立つ 主への賛美を」

歴代誌第一 25～27章 エルサレムの奏樂者と門衛・士官と文官

Shikaoichurch.com

# アウトライン

## 0. イントロダクション

I. エルサレムの宮の奏楽者 25章

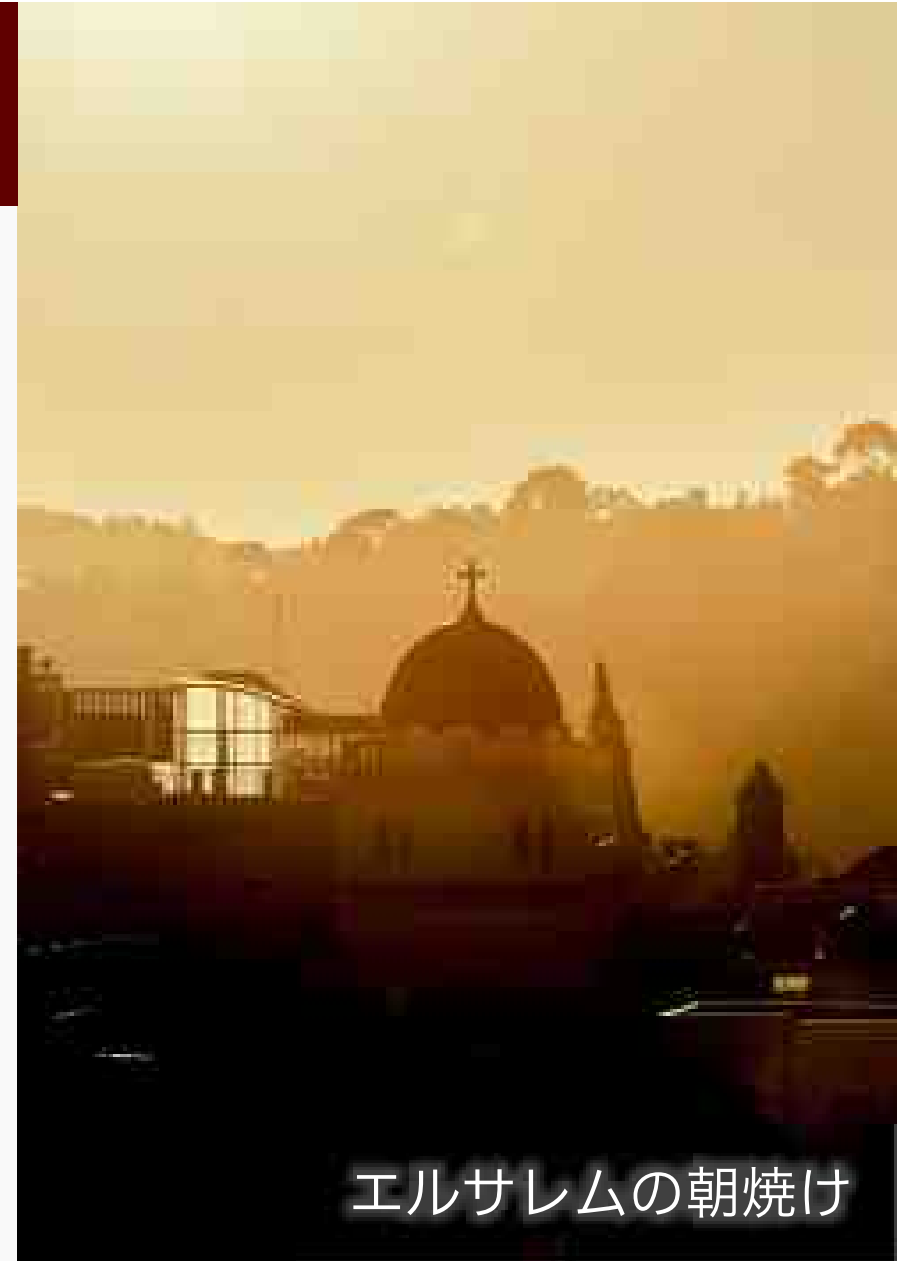
II. エルサレムの宮の門衛 26章

III. ダビデの士官と文官たち 27章

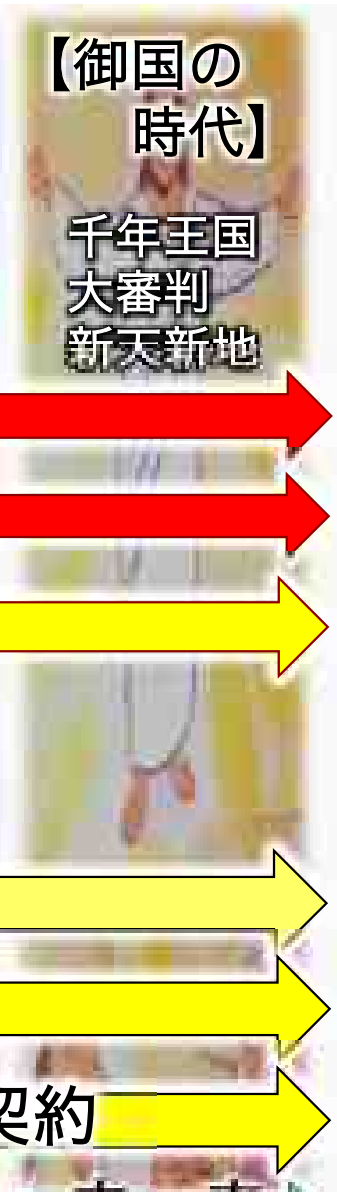
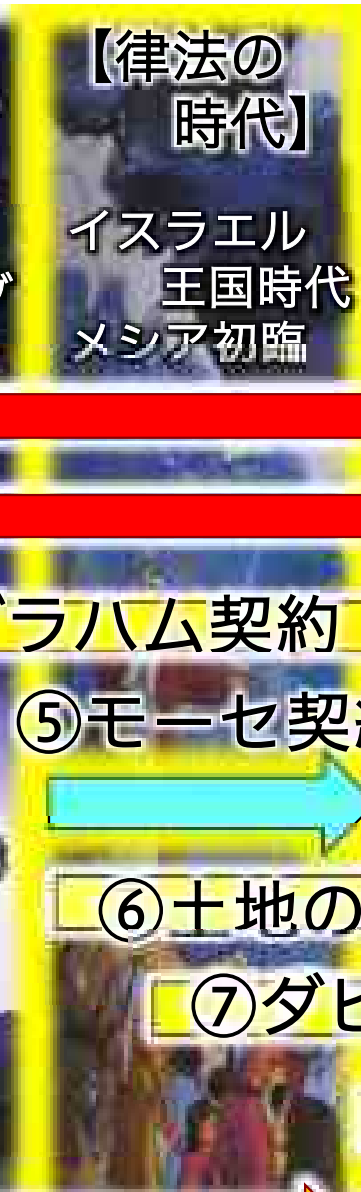
## IV. まとめと適用

生ける神の宮を守ろう

御言葉こそが最大の防壁



エルサレムの朝焼け



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

過去

現在

未来

どの時代も  
神の約束が礎にある

★イスラエルの歩み★

異邦人の時

【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂 前950

ダビデ契約

【王国時代】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

モーセ契約

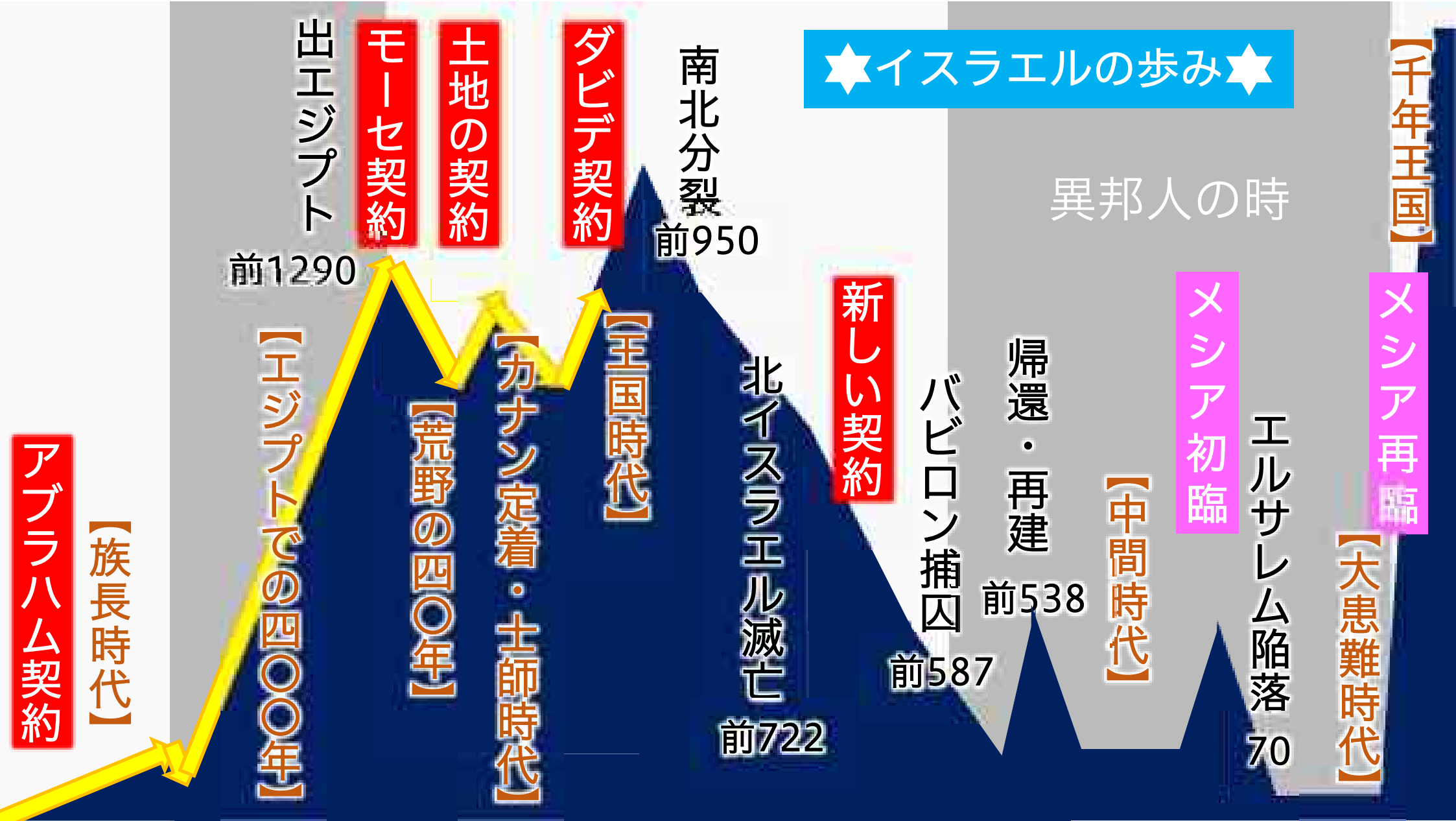
【荒野の四〇年】

出エジプト 前1290

【エジプトでの四〇〇年】

【族長時代】

アブラハム契約



# 歴代誌とは？

- 署名 …ヘブル語聖書 「ディプレ・ハヤミム(その時代の記録)」  
七十人訳聖書 「パラレイポメナ(省略)」
- 著者 …不明。エズラ？(ユダヤの伝承)  
用語、文章構成がエズラ記、ネヘミヤ記に似ている  
→まとめられたのはバビロン捕囚後？(捕囚にも言及)
- 構成 …本来、第一と第二で一つの書。七十人訳で分割。  
歴代誌第一 →サムエル記第一・第二  
歴代誌第二 →列王記第一・第二
- 内容 …イスラエルの祭儀、礼拝、とりわけ**神殿**のこと。

神の栄光は  
神殿に宿る

歴代誌 第一

系図	1～9章	アダムからサウルまでの系図 メシアの系譜 祭司の系譜 12部族それぞれの系譜
サウル王	10章	サウル王の罪と死
ダビデ王	11～12章	ダビデ王の即位 ダビデの軍勢
	13～16章	ダビデと契約の箱
	17章	ダビデの <b>神殿建設</b> の願い → <b>ダビデ契約</b> (17:10～14)
	18～20章	ダビデの勝利
	21章	人口調査と疫病
	22～26章	<b>神殿建設の準備</b> …祭司・奏楽者・門衛の組織
	27章	軍事と政治におけるリーダーたち
	28～29章	ダビデの晩年

神殿建設  
準備に  
スポット



## ダビデのあしどり

- 主はダビデに、ダビデの王家を永遠に守り導くこと、子孫にメシアが誕生することを告げた。 → **ダビデ契約**
- 周辺国の平定間近のある時、ダビデは、**バテ・シェバ**と姦淫を犯し、夫ウリヤを戦死に見せかけ殺害した。
- 息子**アブサロム**に王権を奪われ、ダビデは都落ち。アブサロムがヨアブに討たれた後に、王座に復帰した。
- 買い取った**麦打ち場**が神殿用地と分かったダビデは、建設準備を進め、宮の奉仕のため、祭司を組織した。





# Ⅰ. エルサレムの宮の奏楽者

歴代誌Ⅰ 25章

The Chords Bridge



## 【預言する奏楽者たち】 | 歴代誌25:1

また、ダビデと軍の長たちは、アサフ\*とヘマンとエドトンの子らを奉仕のために取り分け、豎琴と琴とシンバルに合わせて**預言\***する者とした。仕事に就いた者の数は、その奉仕にしたがって次のとおりである。

＊奏楽者たちは、神の言葉を取り次ぐ**預言者**だった。

■ダビデの詩篇は、主への**賛美**であり、同時に**預言**。

多くの**メシア預言**も含まれている。

■詩篇には、アサフ(“集める者”)を始め、奏楽者たちの歌・**預言**も多く収められている。



預言者集団を  
育成したダビデ

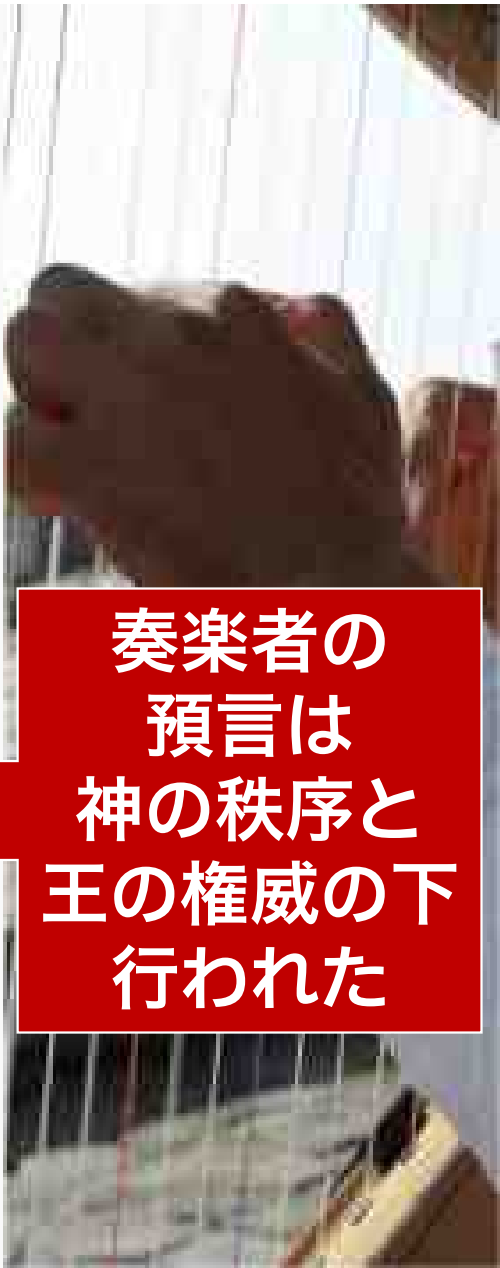
## 【3つの奏楽隊】 | 歴代誌25:2~5

**アサフの子**では、ザクル、ヨセフ、ネタンヤ、アサルエラ。これらはアサフの子で、**王の指揮にしたがって預言するアサフの指揮下**にあった。

エドトンについて。**エドトン**(誉め讃える)**の子**は、ゲダルヤ、ツェリ、エシャヤ、シムイ、ハシャブヤ、マティテヤの六人。**豎琴に合わせて【主】をほめたたえ、賛美しながら預言する彼らの父エドトンの指揮下**にあった。

ヘマンについて。**ヘマン**(忠実)**の子**は、…。

これらはみな、**王の先見者ヘマンの子で、神のこ**  
**とばを通して王の角を高く上げる者たち**であった。神はヘマンに息子十四人と娘三人を与えられた。



奏楽者の  
預言は  
神の秩序と  
王の権威の下  
行われた

## 【奏楽隊の秩序】 | 歴代誌25:6~8

これらはみな、その**③父の指揮下**にあって、シンバル、琴、豎琴を手に、**①【主】の宮**で歌を歌い、**②王の指揮下**に神の宮の奉仕に当たる者たちである。アサフ、エドトン、ヘマン、彼ら、および、**【主】**にささげる歌の訓練を受け、みな達人であった彼らの同族の数は二百八十八人であった。

彼らは、下の者も上の者も、達人も弟子も\*、みな同じように任務のためのくじ\*を引いた。

\*“くじ”は、**神意**を指す。人間の基準ではなく、**神の基準**で、一人一人の役割が与えられた。



## アサフ

③ ザクル

① ヨセフ

⑤ ネタンヤ

⑦ アサルエラ(エサルエラ)

4

預言者・奏楽者

## エドトン

② ゲダルヤ

④ ツエリ(イツエリ)

⑩ シムイ

⑫ ハシャブヤ

⑭ マティテヤ

5

## ヘマン

⑥ ブキヤ

⑫ ギダルデイ

⑨ マタンヤ

⑭ ロマムティ・エゼル

⑪ ウジエル(アザルエル)

⑬ シェブエル(シュバエル)

⑮ エリモテ

⑰ ヨシュベカシヤ

⑯ ハナンヤ

⑲ マロティ

⑲ ハナニ

⑳ ホティル

㉑ エリアタ

㉓ マハジオテ

14

- ①ヨセフ
- ②ゲダルヤ
- ③ザクル
- ④ツエリ(イツエリ)
- ⑤ネタンヤ
- ⑥ブキヤ
- ⑦アサルエラ(エサルエラ)
- ⑧エシヤヤ
- ⑨マタンヤ
- ⑩シムイ
- ⑪ウジエル(アザルエル)
- ⑫ハシャブヤ
- ⑬シエブエル(シュバエル)
- ⑭マテイテヤ
- ⑮エリモテ
- ⑯ハナンヤ
- ⑰ヨシュベカシヤ
- ⑱ハナニ
- ⑲マロテイ
- ⑳エリアタ
- ㉑ホテイル
- ㉒ギダルデイ
- ㉓マハジオテ
- ㉔ロママムテイ・エゼル

## 奏樂者の各隊の奉仕順

各隊が12人

アサフ

エドトン

ヘマン



## II. エルサレムの宮の門衛

歴代誌 I 26章

西壁で祈る兵士

## 【レビ人の門衛】 | 歴代誌

26:1 門衛の組分けについて。コラ人では**アサフ族**のコレの子**①メシェレムヤ\***。

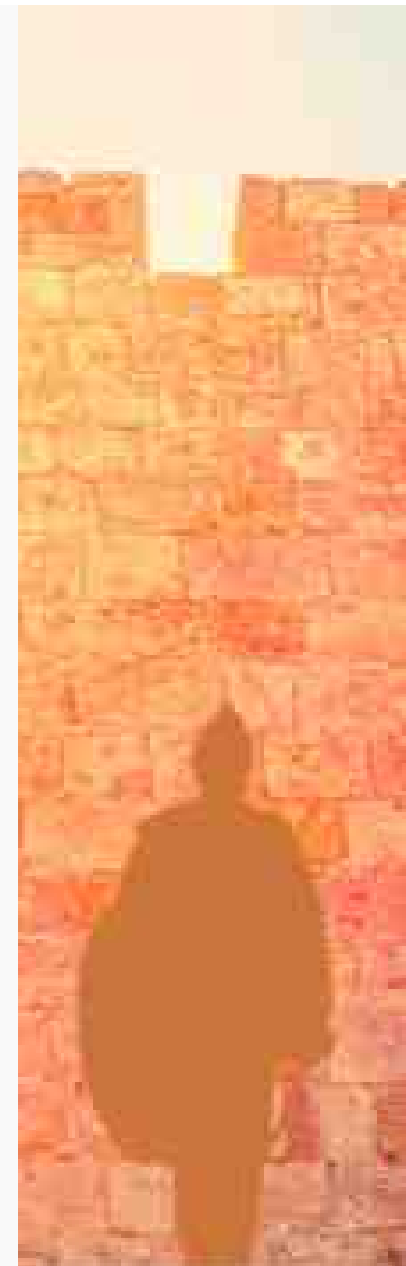
26:9 メシェレムヤには子どもと兄弟たちがあった。彼らは勇者で、**十八人**であった。

26:4 **②オベデ・エドム\***には子があった。長男**シェマヤ**…。

26:6 彼の子**シェマヤ\***に子どもたちが生まれた。彼らは勇士だったので、その父の家を治める者となった。

26:8 …オベデ・エドムに属する者は**六十二人**であった。

\***シェマヤの子**らも、父**シェマヤ**の兄弟と同じ扱いに。



## 【レビ人の門衛】 | 歴代誌26:10

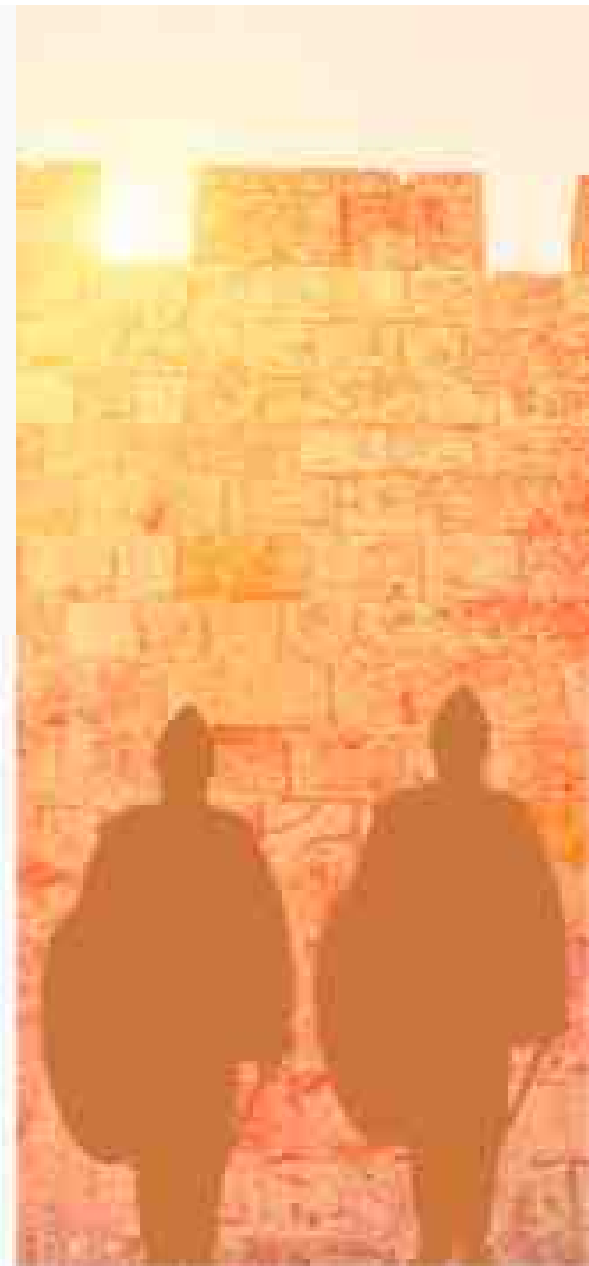
メラリ族の③ホサには子があった。そのかしらはシムリ\*であった。彼は長男ではなかったが、父が彼をかしらにしたのである。第二はヒルキヤ、第三はテバルヤ、第四はゼカリヤであった。ホサの子ども、兄弟たちは合計十三人であった。

\*信仰者と勇士の優れた資質ゆえだろう。

➡長男以外が父の家を継いだケースの1つに。

例) 弟ヤコブ。11番目のヨセフ。

8番目のダビデ…。





コラ族

メラリ族

メシエレムヤ

オベデ・エドム

ホサ

- ゼカリヤ
- エディアエル
- ゼバデヤ
- ヤテニエル
- エラム
- ヨハナン
- エルエホナイ
- ヤテニエル

- シエマヤ
- エホザバデ
- ヨアフ
- サカル
- ネタンエル
- アンミエル
- イツサカル
- ペウレタイ

- シムリ
- ヒルキヤ
- テバルヤ
- ゼカリヤ

18

62

13

門衛 26:1~11

- オナニ
- レファエル
- オベデ
- エルザバデ
- エリフ
- セマクヤ

## 【各組の持ち場の選定】 | 歴代誌26:12~13

門衛のこれらの各組に対し、【主】の宮で仕える任務が、彼らのかしらごとに、彼らの兄弟たちと全く同じように割り当てられた。

こうして彼らは、下の者も上の者も等しく、その父祖の家ごとに、一つ一つの門についてくじを引いた。

■門衛も、他のレビ人同様、くじ(神意)によって奉仕の場を割り当てられた。



## 【各組の持ち場】 | 歴代誌26:14~16

東方のくじは**シェレムヤ**に当たった。彼の子で思慮深い助言者**ゼカリヤ\***(長子)のためにくじが引かれ、彼のくじは北方と出た。

**オベデ・エドム\***には南方、彼の子らには倉、**シュピム**と**ホサ**には西方、それに上り坂の大路のシャレケテ門が当たった。見張りの組と組とは並び合っていた。

\*主に贖われた。\*主は覚えている。

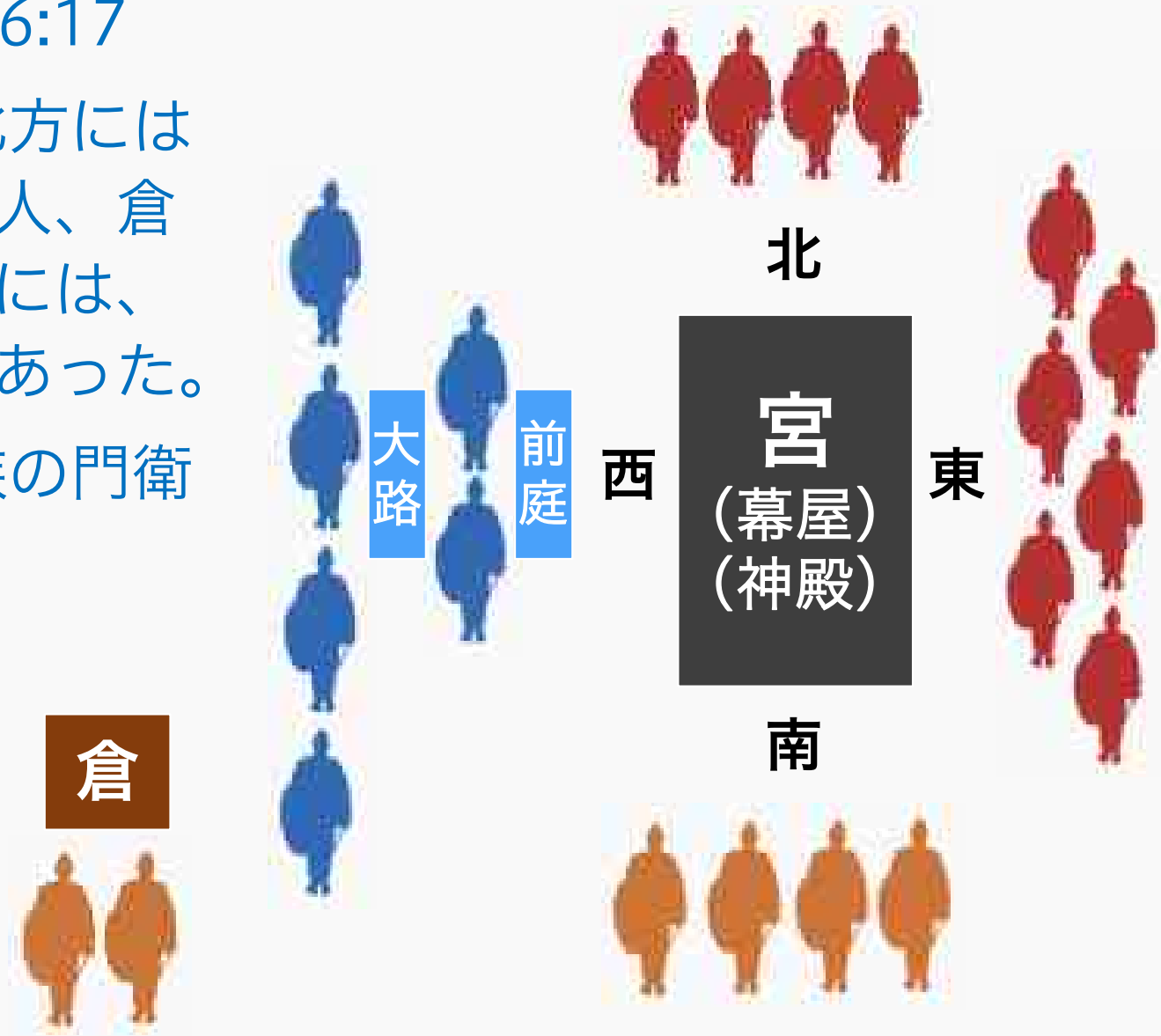
\*エドムの救い。\*蛇。避難。



## 【門衛の配置】 | 歴代誌26:17

東方には六人のレビ人、北方には毎日四人、南方には毎日四人、倉には二人ずつ、西方の前庭には、大路に四人、前庭に二人であった。

以上が、コラ族とメラリ族の門衛の組分けである。



## 【宝物倉の管理者①】 | 歴代誌26:20～22

レビ人のアヒヤ\* は、神の宮の宝物倉および聖なるささげ物の宝物倉を管理した。

ゲルシオン族でラダン\*に属するラダンの子ら、ゲルシオン人ラダンに属する一族のかしらたち、すなわちエヒエル人、エヒエル人の子孫、その兄弟ゼタム\*とヨエル\*は、【主】の宮の宝物倉を管理した。

\*ヤハウエの兄弟    \*整える

\*オリーブ    \*ヤハウエは神



## 【宝物倉の管理者たち②】 | 歴代誌26:23

アムラム人、イツハル人、ヘブロン人、ウジエル人については、モーゼの子ゲルシヨムの子シェブエル\*が宝物倉のつかさであった。

彼の同族で、エリエゼル\*に属する者は、その子レハブヤ、その子エシャヤ、その子ヨラム、その子ジクリ、その子シェロミテ\*であるが、このシェロミテと彼の兄弟たちは、ダビデ王と一族のかしらたち、および、千人隊の長、百人隊の長たち、軍の長たちが聖別して献げた聖なるささげ物の、すべての宝物倉を管理した。

\*神の捕虜    \*神は助け    \*平和的



## 【歴代の戦利品の管理】 | 歴代誌26:27~28

彼らは、戦いで得た分捕り物の一部を、【主】の宮を修理するために聖別した。

すべて予見者サムエル、キシユの子サウル、ネルの子アブネル、ツェルヤの子ヨアブが聖別した物、すなわち、すべての聖なるささげ物は、シェロミテとその兄弟たちに委ねられた。

■最後の士師サムエル。初代の王サウル。

将軍アブネル。将軍ヨアブ。

→歴代の指導者が分捕り、聖別し備えていたもの。



## 【その他の奉仕者たち】 | 歴代誌26:29~30

イツハル人のうち、ケナンヤ\*とその子たちは、イスラエルに関する外の仕事に就き、つかさやさばき人となった。

ヘブロン人のうち、ハシャブヤ\*とその同族の者、すなわち勇者千七百人は、ヨルダン川より西のイスラエルの管理に当たり、【主】に対する務めと王に対する奉仕のすべてを担った。

\*ヤハウエは設立された

\*ヤハウエは考慮された



レビ族のヘブロン人たち



## 【ヨルダン川東岸のレビ人たち】 | 歴代誌26:31~32

ヘブロン人のうち、エリヤ\*は、その一族とその家系によればヘブロン人のかしらであった。ダビデの治世の第四十年に、彼らは調べられ、ギルアデのヤゼルで彼らの中に**勇士たち\***が見つかった。

彼の同族の者たちは勇者であって、二千七百人いたが、一族のかしらたちであった。ダビデ王は彼らを、ルベン人、ガド人、マナセ人の半部族の上に任命し、すべて神に関わる事柄、王に関わる事柄に当たらせた。

### \*神の教え

■ 異邦人の侵略にさらされたヨルダン川東岸にも  
信仰者である**勇士たち\***が残っていた。➡リーダーに



### Ⅲ. ダビデの士官と文官たち

歴代誌 | 27章



神殿の丘・西壁

## 【イスラエル十二分団】 | 歴代誌27:1

イスラエルの子ら、すなわち、一族のかしらたち、千人隊の長、百人隊の長たち、および彼らのつかさたちは王に仕え、一年のすべての月を通して、月ごとの交代制により各分団のすべてのことに当たった。その人数は一つの分団が二万四千人であった。

### ■イスラエル12分団

1分団・2万4千人 → 全軍28万8千人

個々の分団が、1ヶ月ずつ交代で任務にあたった。



イスラエル十二分団

第一分団	ザブディエルの子ヤショブアム	三勇士。ヨシヱブ。ユダ族ペレツ。
第二分団	アホア八人ドダイ <b>三勇士</b>	三勇士。ドドの子エルアザル。ベニヤミン
第三分団	エホヤダの子ベナヤ <b>30勇士</b>	異邦人部隊の長。ヨアブの次に将軍に。
第四分団	ヨアブの兄弟アサエル	ヨアブの兄弟。俊足。戦死。ユダ族。
第五分団	イズラフ人シャムフテ	
第六分団	テコア人イケシュの子イラ	ベニヤミン族。テコアの女(IIサム14:2)
第七分団	ペロ二人ヘレツ	エフライム族。
第八分団	フシャ人シベカイ	ペリシテの巨人を討つ(IIサム21:18)
第九分団	アナトテ人アビエゼル	ベニヤミン族。
第十分団	ネトファ人マフライ	ユダ族。
第十一分団	ピルアトン人ベナヤ	士師アブドンと同郷。エフライム族
第十二分団	ネトファ人ヘルダイ	士師オテニエルの子孫。ユダ族。

## イスラエルの部族長 (27:16~22)

ルベン	ジクリの子エリエゼル
シメオン	マアカの子シェファテヤ
レビ アロン(祭司)	ケムエルの子ハシャブヤ ツアドク
ユダ	ダビデの兄弟エリフ
イッサカル	ミカエルの子オムリ
ゼブルン	オバデヤの子イシュマヤ
ナフタリ	アズリエルの子エリモテ
エフライム	アザズヤの子ホセア
マナセ マナセ(ギルアデ)	ペダヤの子ヨエル ゼカリヤの子イド
ベニヤミン	アブネルの子ヤアシエル
ダン	エロハムの子アザルエル



## 【主の約束に基づいて】 I 歴代誌27:23~24

ダビデは二十歳以下の者は数に入れなかった。

【主】がイスラエルを天の星のように多くする\*と言われたからである。

ツェルヤの子ヨアブが数え始めたが、終わらなかった。しかし、このことで御怒りがイスラエルの上に下った\*。それでその数はダビデ王の年代記の統計には載らなかった。

\*アブラハム契約・子孫の祝福

→数えきれないほど増やす。求められる信頼。

\*歴 I 21章、IIサム24章。3日間の疫病。



## 【王の資産の管理者たち】 | 歴代誌27:25～28

王の宝物倉をつかさどったのは、アディエルの子アズマウェテ。畑地、町々、村々、それぞれの塔にある宝物倉を管理したのは、ウジヤの子ヨナタン。

土地を耕して畑仕事をする者たちを管理したのは、ケルブの子エズリ。

ぶどう畑を管理したのは、ラマ人シムイ。酒蔵用のぶどう畑の産物を管理したのは、シェファム人ザブディ。シェフェラ\*にあるオリーブの木といちじく桑の木を管理したのは、ゲデル人バアル・ハナン。油の倉を管理したのはヨアシユ。



## 【王の家畜の管理者たち】 | 歴代誌27:29~31

シャロン\*で飼われる牛の群れを管理したのは、シャロン人シルタイ。谷\*にいる牛の群れを管理したのは、アデライの子シャファテ。

らくだを管理したのは、イシュマエル人オビル。雌ろばを管理したのは、メロノテ人エフデヤ。

羊の群れを管理したのは、ハガル人ヤジズ。これらはみな、ダビデ王の所有する財産の長官であった。

\*「シャロンのばら、谷間のゆり(雅歌2:1)」

\*谷は、ヨルダン川の渓谷だろう。





## 【ダビデの側近たち】 | 歴代誌27:32

ダビデのおじヨナタンは助言者であり、洞察力のある人で、彼は書記でもあった。ハクモニの子エヒエルは王の子らとともにいた。

アヒトフェル\*は王の助言者で、アルキ人フシャイ\*は王の友であった。アヒトフェルの跡を継いだのは、ベナヤの子エホヤダとエブヤタル。王の軍の長は ヨアブであった。

\*アブサロムの反乱に加担、敗北を悟り自殺。

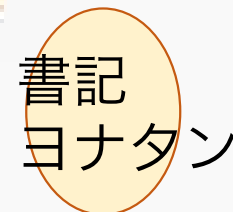
\*アヒトフェルの助言を退けダビデの勝利に貢献。



ダビデ  
王



エヒエル



書記  
ヨナタン



王の友  
フシャイ



助言者  
アヒトフェル



軍の長ヨアブ



エホ  
ヤダ



エブ  
ヤタル

## IV. まとめと適用

生ける神の宮を守ろう

御言葉こそ最大の防壁



## 【主の宮の奏楽者たちと預言と神の権威】

- ダビデが組織した奏楽者たちは、主の言葉の預言者でもあった。  
神の前で、王の指揮の下、楽隊の長に従い、奉仕をした。
  - ➔ 神の秩序の下で、彼らは主を讃え、**主の言葉**を取り次いだ。  
ダビデと奏楽者たちによって**詩篇**が記された。そのための権威。
- 教会時代の信者の秩序を確認しよう。
  - ➔ **①**キリスト ➔ **②**使徒・預言者 ➔ **③**長老 ➔ **④**信者たち
  - 使徒と預言者たちが告げた主の言葉により、**新約聖書**が記された。
    - ➔ **確定した聖書の権威**に従うことが、私たち信者の最大の責務。

## 【エルサレムの主の宮の門衛に学ぶこと】

- 主に仕えるレビ人がエルサレムの宮の警備にあたった。  
→今の教会時代に、生きた主の宮を警備するのは、**信者一人一人**。
- イスラエルが敵と戦う力はすべて、**主**から来る。  
→霊的戦いの中心、最前線は常に**礼拝**の場。  
奏樂者が口にしたのは、**神の言葉**。信仰者の力は**神の言葉**にある。
- クリスチャンの戦いの勝利は、**主の御言葉**によってもたらされる。  
→**聖書の御言葉**への信頼が、試練に打ち克つ力となる。

## エペソ6:11~17

悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい。

私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。

ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、一切を成し遂げて堅く立つことができるように、神のすべての武具を取りなさい。

そして、堅く立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、足には平和の福音の備えをはきなさい。

これらすべての上に、信仰の盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢をすべて消すことができます。

救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち**神のことば**を取りなさい。

## ヘブル4:12~13

**神のことば**は生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。

神の御前にあらわでない被造物はありません。神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。この神に対して、私たちは申し開きをするのです。

## 【御言葉にしがみつき、堅く立ち続けていこう】

- イスラエルの最大の敵は、信仰を足元から突き崩す偶像礼拝。  
クリスチャンの最大の敵は、巧みに持ち込まれる偽りの教え。
- 言葉に惑わされず、実を見て判断しよう。偽りに染まった人は、聞けば信じていると答える。例) N A R や宇宙人にはまった人々。
- 聖書に明確に記されたことに従い、的確に適用できるように。  
霊的戦いの最大の武器・防具は、**正しく解釈された聖書の御言葉。**

**混沌深める罪の現実に対抗して、御言葉の適応力を磨き上げよう**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

わたし自身(じしん)が、聖霊(せいれい)の住(す)まわれる  
生きた宮(みや)とされました。しかし、たくみに入りこもうとする  
敵(てき)の偽(いつわり)りの おしえがあります。

主の御心(みこころ)に従(したが)って 聖書(せいしょ)を  
理解(りかい)し、力とすることができますように。

混沌(こんとん)を深(ふか)める 闇(やみ)の時代にあって、  
かたく御言葉(みことば)に立ち、神の兵士(へいし)として、  
勝利(しょうり)して いくことができますように。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」